

うわまち病院跡地の利活用について

市長

おはようございます。コロナもいまだに続きますが、反転攻勢をかけて、横須賀発展のため頑張りたいと思いますのでよろしくお願いしたいと思います。

本日は、うわまち病院跡地の利活用についてご説明させていただきます。

平成30年8月にうわまち病院の移転を発表して以来、跡地利用について、私自身、様々に動いてまいりましたが、このたび、ようやく、その活用について1歩前進する動きが出てまいりましたので、この場で発表させていただきます。

それでは資料に沿ってご説明をいたします。

うわまち病院は老朽化が進み、今後、適切な療養環境の維持が困難であることから、令和7年3月に神明町へ移転します。

本日は跡地の利活用について、最新の状況を発表いたします。

うわまち病院の概要については、資料に記載のとおりです。

次に、跡地活用の検討状況についてです。まず、敷地の奥側、南館エリアですが、南館は、平成18年完成、築16年と比較的に新しい施設です。そのため、建物を含めた利活用について、様々な誘致活動を進めてまいりました。

このたび、ようやく、医療・看護系の大学の進出に向けた検討を進めたいといった趣旨の打診を受けました。具体的な協議・調整はこれからなので、相手方の情報について、本日は差し控えさせていただきます。

次に、手前側の本館エリアについてです。本館エリアの建物は老朽化が進んでいるため、建物の解体を前提に、「地域住民へのヒアリング」および「事業者へのサウンディング調査」を行います。これにより、南館エリアとあわせて、地域全体の活性化に資するような、跡地の利活用に向けて、引き続き検討を進めてまいります。

サウンディング調査、スケジュールおよび位置図については、資料に記載のとおりです。

本日は、ようやく生まれてきた利活用の動きについて地域の皆さま、そして市民の皆さまにいち早くお伝えしたく、ご報告申し上げました。私からは以上です。

<質疑応答>

記者

打診を受けたのはいつ頃でしょうか。

市長

令和3年8月4日に打診がありました。

記者

市長に直接打診があったのですか。

市長

はい。

記者

相手方を伏せるということですが、全国的なのか、もしくは関東地域圏の医療関係の法人なのでしょうか。

市長

医療関係の法人とご理解いただければと思います。

記者

今後、どのようなスケジュールで進めていくのですか。

市長

大学設置にあたり、どのような連携ができるのかということ、これから具体的に調整していきたいと思います。

記者

キャンパスを持ってくるイメージなのでしょうか。

市長

南館エリアを使用していただくのですが、キャンパスやその周辺を含め、どのような施設ができるのか、民間施設と併用していくのかということ、これから検討していきたいと思います。

記者

完成した場合の経済的な波及効果など数値的なものはありますか。

市長

まだ、ありません。ただ、経済的な波及効果というよりも、その地域の活性化に資することと考えています。うわまちの方々も非常に心配していましたので、個人的には学校が良いと思っており、南館を使っていただくという前提で検討をしていただける大学があればということで様々なアプローチを行いました。

記者

その他の建物については、サウンディング調査を行い、検討するというのでしょうか。

市長

その通りです。

地域の方々のご期待に添いたいということと、地域の活性化に資するものが併用できれば良いと思っていますので、今後、地域の方々のお声を聞きながら、調査・検討を進めていきたいと思っています。

記者

いつまでに医療・看護系大学が進出するという目処はありますか。

市長

目処はたっておりません。今後の打ち合わせの進捗によってですが、来年あたりには、サウンディングを含め、具体的に検討を進めていきたいと思っています。

記者

うわまち病院跡地は、レッドゾーンに指定されているのですか。

市長

はい。このため、建て替えにはさまざまな制約があり、困難だったため、うわまち病院の移転を考えました。

記者

病院への入り口が狭いと思いますが、そこを拡幅するというものもあるのですか。

市長

現在、拡幅に向け、打診等を行っています。

しかし、どのようなものができあがるのかということで、当事者の方々も様々な意見があると思いますので、なるべく早く、発表させていただきました。

記者

学校の規模としてはどのくらいになるのでしょうか。

市長

規模としては、大体、400人程度だと思います。

記者

周辺にある、既存の看護専門学校はどうなるのでしょうか。

市長

今後も継続していくのか、合併するのか等、これから検討していきます。

記者

打診を受け、市長は受け入れる方針であるということなのでしょうか。

市長

そのようにご理解いただければと思います。

記者

実際に受け入れるため、何か契約を取り交わし、決まるのでしょうか。

民生局長

先程ご質問のありました、市立の看護専門学校と大学を統合するなども、これから考えていくのですが、そうした場合、市立や公立大学法人などのさまざまな運営形態があるかと思えます。

そのあたりについても、市立看護専門学校のあり方と、今回、打診のあった相手方の法人と運営方法を煮詰めていくということになると思えます。

ただし、そこはまだ決まっておりませんので、今後、運営形態を決めていく中で、委託なのか契約なのか、直接、法人が運営してくのかなどを検討していきたいと考えています。

記者

本館エリアについてですが、「北館と西館を含む」という記載がありますが、建物の解体を前提

とするのは、北館の外来棟と本館の中央棟、西館の管理棟のことを指すのでしょうか。既存の看護専門学校については、現在のところは残す方針という理解でよろしいでしょうか。

経営企画部長

南館エリアを除いた部分については老朽化しており、解体を前提に考えています。今後、看護専門学校とも調整を行っていくということとなります。

記者

医療系の大学を受け入れる方針を示されましたが、市長として、今後、こういった場所になってほしいという構想などはありますか。

市長

病院があった土地なので、医療分野に対する中心地になってもらいたいと考えています。また、うわまちに学校を中心とした、新たなコミュニティができあがればいいと考えています。

<案件以外の質疑>

記者

米軍のPFOSについてですが、その後、進展はありましたか。

市長特命参与

現在のところ、国からは何も動きはございません。

記者

安倍総理の国葬についてですが、市でどのような対応を行うなどは考えているのでしょうか。

市長

詳細を国が検討しているところなので、まずはその結果を待ちたいと思います。

(終了)